

編輯室內外

二月十一日の紀元節を迎ふるに當りそぞろに偲ばるるは華國の事である。紛亂せる各部を統一し、之を秩序立て、内に業務を勵ましめ、外に寇敵を攘はして、内に業務を勵ましめ、外に寇敵を攘はして、内に業務を...

打ち込む男の魂が花火と散つて複雑怪奇な海底の地殻を一徹一徹切崩しつゝ、世紀の息を吐き、下地盤固めのセメント道は、今一けて居るといふは、萬難を克服し、勝利を手に出ることであらう。加藤事務局長が、戦後、士一同の意氣益々旺に、大に其の進歩に努力を...

重役陣頭指揮の要綱は決定せられた。一時的成績を事務的に視るの外、精神的の要訣がある。今尙重役陣頭指揮の學を以て、專らに當るを要す。要は平生此心構を以て、專らに當るを要す。要は平生此心構を以て、專らに當るを要す。...

喰はれるかの斷末場である。面目一新の傾向あるは猶舊習残滓の留まれるものなきか。尙社といはず、官廳の云はれず、官民を問はず、この重役陣頭指揮の精神徹底を欲する。

花柳界といふ我國特異の制度、習慣の處止を提唱せざるを得ない。今日の事態は斯くの如きものは一切の奢侈を廢し、遊興を廢し、國民總力の集中發揚を必要とする。夫れに高貴官公吏や富を博する商人連中は、如何に之を見守るか。花柳界の名稱すら身の毛のよだつと思がする。此等遊興の場所奢侈の殿堂を廢し、適切有功なる大眾食堂を要望せざるを得ない。當局以て如何と爲す。

大小都市の料亭待合が毎夜超満員である。如き潜行亭、果して然るか緊要の反面に斯と多きか。夜遅く電車に乗れば泥酔者の如何に多きかを視る。サードピスをする。ソダとは外人の言葉である。婦人のサードピスがなれば酒をうましく飲む。婦人のサードピスがなれば酒をうましく飲む。婦人のサードピスがなれば酒をうましく飲む。...

新增税金は間接税と特別行爲税とで消費の抑制、購買力の吸収に狙ひをつけたもので、大衆の課税の色彩が濃厚である。國民は

上層といはず下層といはず租税を適して前線戦士の勞苦を偲び、減私奉公の實をあげねばならぬ。我々は假令課税其のものが如何に重き負擔を來たすとして、甘んじて之に答へるはなきはずである。だが政府當局に望むものは一般的である上からは、あくまで公平に處理せられんことである。

戰時下産業上の基本資材たる石油は軍需と密接不離の關係にある。國民需油を確保すると共に、高度の重點配給をなす要ある爲石油の現物を把握し併せて配分の衝に當ることとなり、此の議會は石油製品の專賣を斷行することに決し、政府は石油製品を提出すと吾人は寧ろ其の速きを憾とす。(一一〇號)

東京市麹町區霞關一丁目内務省内 發行所 社団法人道路改良會 電話銀座(57)〇四二七 狹谷口座番號東京二〇六 東京市赤坂區水戸町一七 編輯者 平井良成 東京市小石川區諏訪町五六 印刷所(東惠三) 株式會社常磐印刷所 印刷者 奈良直一 定價一部 五十六圓 一ケ年分